

インターバンクの声（2014年8月22日）

昨日のニューヨーク時間に発表のあった新規失業保険申請件数、7月中古住宅販売件数や8月のフィラデルフィア連銀景況指数といった指標結果が市場予想を上回る結果となった。しかし、ドル円をはじめ対主要通貨でのさらなるドル買い上昇は見られず、さすがにイエレンFRB議長のジャクソンホール講演前とあって、調整傾向となった市場の流れに身を委ねる展開となった。良好な指標結果が続けば、米景気の先行き期待もますます高まることから、いつもなら早期の利上げを警戒した株価下落や、債券市場でも利回りが上昇傾向となるが、昨日はダウ平均が久々に1万7千ドルを回復、米10年債利回りも2.40%前後へ数ベースス下げる動きを見せた。この利回り低下部分がドル売りに大きく影響していたような気もするが、それでもドル円の下落は103円61銭までに留まった。結局、アジア時間で長時間続けた取引レンジに戻ってきた。イエレン議長の講演内容がハト的でもタカ的でもドル買いの趨勢が強まってきたとの声もあるが、今晚の相場に関しては多数派の動きが幅を利かせることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。